

(別紙様式2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 29 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

工学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 28 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
1 : 講義室を増室することにより、各学科における時間割作成時の自由度を増やす。 2 : カリキュラムを意識した時間割作成を行う。 実施時期 (予定を含む) : 来年度以降
改善状況
1 : 現在、情報学部と合同で使用する講義棟を新設している。それが平成 29 年度中に完成し、使用を開始する予定である。 2 : 教室に余裕ができると時間割編成にも自由度が増して、よりカリキュラムを意識した時間割編成も可能となる。
達成年度 (予定を含む)
平成 29 年度

改善事項
学部生の国際的視野 (異分野理解・グローバルな問題の理解)

改善計画
<p>1 : 海外の研究室との交流（SSSV活動、3年目）をさらに充実させることで、日本人学生の国際化に努める。（本年度からは学部学生に単位「海外研修(2単位)」が認定される。）</p> <p>2 : 国際交流センターと協力して、日本人学生が外国人留学生と交流できるような場を提供する。</p> <p>3 : 国際経験豊かな教員たちによるプロジェクトを立ち上げ、海外派遣を促すためのイベントの企画・実行や授業改善などを試みる。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : 「海外研修」もカリキュラムに組みこまれ、3年目のSSSVも派遣が14研究室、学生が72名、受入が5研究室、学生が21名にのぼっており、完全に国際交流の行事として定着してきている。</p> <p>2 : 工学部では、学部留学生のクラスメートの日本人学生が留学生のピアサポーターを担当する制度を制定した。この制度を西部キャンパスの国際交流センター教員が委員となっている西部キャンパス留学生委員会に紹介した。さらに、西部キャンパスの国際交流センター教員の協力を得て、日本人チューターによる学部留学生を対象とした課外日本語教室および生活相談を実施した。</p> <p>3 : 工学部に所属している外国人教員とグローバル企画推進室に所属している教員とが中心となり、日本人教員が英語で授業を実施する際のアドバイス等を実施する体制を作った。また、工学部に所属している外国人教員を中心メンバーとする教員交流会を作り、外国人教員の授業方法等を議論して授業改善をする場ができた。</p>
達成年度（予定を含む）
平成29年度

改善事項
学部生のリーダーシップ
改善計画
<p>1 : 実験・演習等でのグループ活動を通じてリーダーシップの重要性を認識させる。</p> <p>2 : キャリア形成ガイダンス等で、リーダーシップについて考える時間を設ける。</p>

3 : 学校ボランティア活動等への参加などを、学生に促す。
実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討
改善状況
1 : 工学部1年生では全員の必修科目である「創造教育実習」で5つの学科の学生が混成で一つのチームを組んで実習を行い、さらに最終的にはチーム毎にロボットを製作してロボコン形式で競わせる授業を行っており、それらを通じてチームワークやリーダーシップを学ばせている。2年生以後も学生実験では必ずグループで実験を行うことで、チームワークやリーダーシップの重要性を経験させている。さらに4年生の卒業研究においても、複数の卒研生や大学院生が共同で実験を実施する場合は殆どで、それらからもチームワークやリーダーシップを養成している。
2 : キャリア形成ガイダンスや就職指導等で、リーダーシップについて考えさせる機会を与えた。
3 : 浜松地域イノベーション社会連携推進機構が主催している「バイクのふるさと浜松」に工学部学生が中心となっているサークルが参加した。また浜松市生涯学習支援の連携事業として、学生ものづくりサークルなどによる支援の検討を浜松市担当職員と共に開始した。ABPとも関連して外国人学生との交流や支援のサークル、ものづくりサークルに参加することを推奨すると共に、財政的な支援を行っている。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

改善事項
大学院生の専門的職業人に必要な高い能力
改善計画
1 : 講義内容を吟味する。
2 : 研究において学生に作業を指示するだけでなく、自ら進んで考える機会を与え自発性を促す。
実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討
改善状況
1 : 大学院の授業においては、工学専攻の専門的職業人育成に特に必要となる「ものづくり」に関わる授業を充実している。またグローバル職業人に必要な英語で実施さ

れる講義も受講できるカリキュラムとなっている。

- 2 : 各研究室では大学院生に主体的に実験・研究を行わせて、最終的に学会発表を経験させるなど、既に自発性・自主性・独創性・国際性を意識した大学院教育を実施している。

達成年度（予定を含む）

平成29年度

改善事項

教職の学級・学校のマネジメント能力

改善計画

- 1 : 教育実習の際に必要な心構えを、講義内でも繰り返し伝える。
- 2 : もの作り支援等、学校現場の教育活動への参加を通して、知識やスキルを一層高めるための指導を行う。

実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討

改善状況

- 1 : 工学部での教職課程は、今までは工業の免許のみであったために、それ程多くの学生が教職課程を学ぶわけではなかったが、数理システム工学科で数学の免許取得が可能となり、少し増えている。そのために教育実習等への支援体制の強化が必要となってきた。
- 2 : 工学部と情報学部の2、3年生のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」において、学生が小学校あるいは高校でロボット制作のための指導を行っている。その教育活動を効果的に行うために、教材の工夫やわかりやすいプレゼンテーションの準備を行っている。工業に加えて数学の教職課程も始まったので、地元の小・中・高校と協力して、今後さらに教育分野や内容を充実していく予定である。

達成年度（予定を含む）

平成30年度